

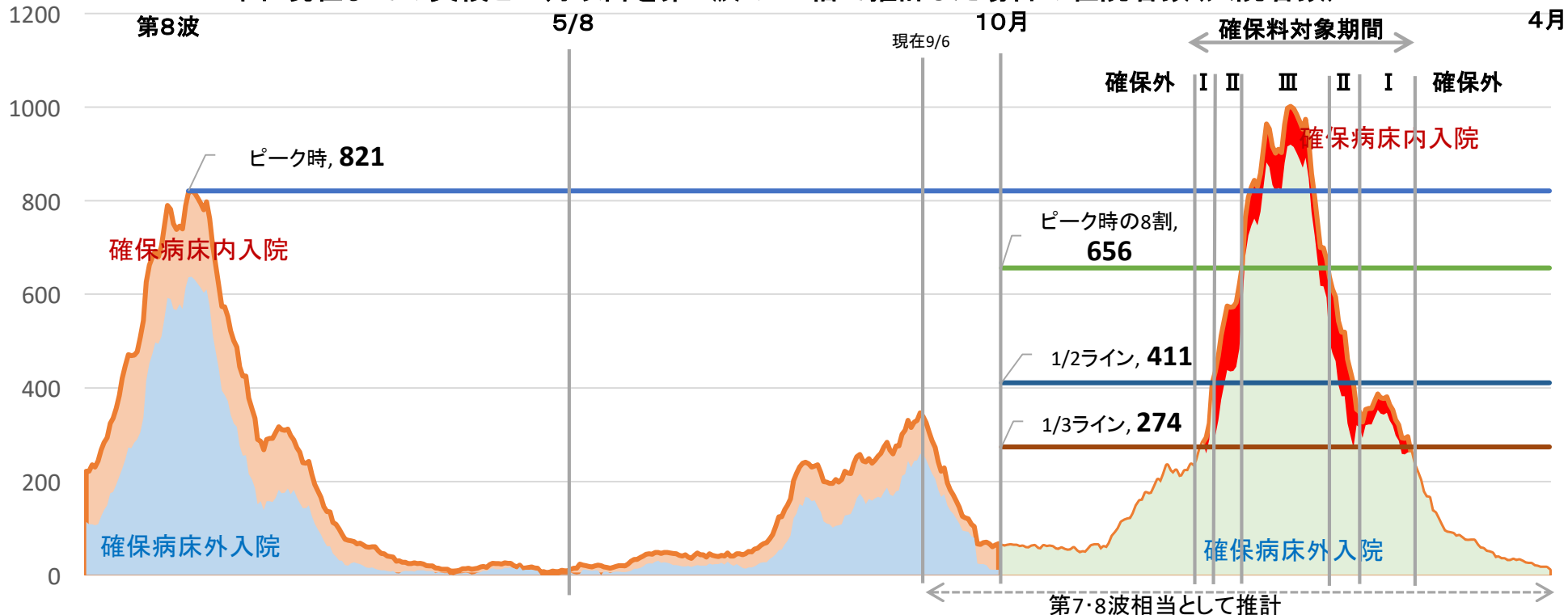
# 資料：高知県におけるR5年10月以降の病床確保に係る段階運用の考え方について

## 病床確保計画（移行計画）

○オミクロン株流行の最大在院者数（第8波の821人）との比較で3つの段階に分類

段階	段階Ⅰ	段階Ⅱ	段階Ⅲ
移行基準 (目安)	①直近ピーク時の1/3の在院者 <b>274人</b> ⇒ ピークまで約6週間	②直近ピーク時の1/2の在院者数 <b>411人</b> ⇒ ピークまで約4週間	③直近ピーク時の8割の在院者数 <b>656人</b>
即応病床数 (上限目安)	$(1/2\text{在院者数} - 1/3\text{在院者数}) \times 25\%$	左記 + $(\text{ピーク時在院者数} - 1/2\text{在院者数}) \times 25\%$	左記 + $(2\text{週間後の試算在院者数} - \text{ピーク時在院者数}) \times 25\%$
高知県の即応 病床数上限	$(821/2 - 821/3) \times 25\% = \mathbf{34\text{床}}$	$34 + (821 - 821/2) \times 25\% = \mathbf{137\text{床}}$	$137 + (985 - 821) \times 25\% = \mathbf{178\text{床}}$

図：現在までの実績と10月以降を第8波の1.2倍で推計した場合の在院者数(入院者数)



# 資料：R5年10月以降の入院等の体制（病床の確保）

病床確保対象期間（段階）ごとの医療機関別確保病床数（即応病床数）

R5.10.1現在

	医療機関名	所在地	対応可能な診療科	段階Ⅰ		段階Ⅱ		段階Ⅲ	
				即応	内、重症対応用	即応	内、重症対応用	即応	内、重症対応用
重	高知医療センター	高知市池	小児、周産期	7	1	12	2	17	3
重	幡多けんみん病院	宿毛市山奈町	小児、周産期	10	2	14	2	14	2
	あき総合病院	安芸市宝永町	周産期	5		5		5	
	田野病院	安芸郡田野町	—	0		2		3	
重	高知大学医学部附属病院	南国市岡豊町	小児、周産期	3		3		3	
重	JA高知病院	南国市明見	小児、周産期、透析	0		8		12	
	野市中央病院	香南市野市町	—	0		2		4	
	嶺北中央病院	長岡郡本山町	—	0		3		7	
重	いずみの病院	高知市薊野北町	—	0		5		5	
重	高知西病院	高知市神田	透析	0		10		10	
重	近森病院	高知市大川筋	—	2	2	2	2	2	2
重	細木病院	高知市大膳町	—	0		8		8	
重	三愛病院	高知市一宮西町	—	0		8		8	
重	国立病院機構高知病院	高知市朝倉西町	小児、周産期	0		6		6	
重	高知赤十字病院	高知市秦南町	小児、周産期	0		7		7	
	愛宕病院	高知市愛宕町	—	0		11		11	
	長浜病院	高知市長浜	—	0		0		11	
	島津病院	高知市比島町	透析	0		2		2	
重	土佐市民病院	土佐市高岡町	—	5		7		10	
	仁淀病院	吾川郡いの町	—	0		6		6	
	須崎くろしお病院	須崎市緑町	—	2		4		4	
	くぼかわ病院	高岡郡四万十町	—	0		0		5	
	四万十市民病院	四万十市中村東町	—	0		0		3	
	渭南病院	土佐清水市越前町	—	0		8		8	
	計			34	5	133	6	171	7

注：重点医療機関の指定は10月以降廃止されています